



2005年11月27日(日)「関東シルクロード」を走りました。18回目となった今回は、JR 中央本線藤野駅をスタートし、鎌倉裏街道と呼ばれているらしい県道 35 号線を都留市に向かいました。最終目的地の“芭蕉月待ちの湯”までの距離は約30キロなのですが、平坦な場所がほとんどないアップダウンの連続で、走りごたえはかなりあるはず。

申込は14名でしたが、体調不良(走りすぎ?)で2名が不参加となり、参加者は海宝さんを入れて13名。呼びかけ人(?)の町田は、車で伴走です。前回までは、申込用紙に“車の伴走はありません”と入れていたのですが、今回は、それをはずしました。というのは、コース上にオアシスともいえるコンビニが全くないのです。でも、“車の伴走がありますので安心してください”とは案内しませんでした...

晴天に恵まれ、紅葉はまさに見頃、ゆっくり時間をかけて移動して、全員無事に温泉につかり、この日を楽しむことができました。そう、これが大会でも練習会でもない「関東シルクロード」です。





## 人身事故

海宝道義さんと町田行弘は、JR 藤野駅に 8 時過ぎに到着しました。「ちょっと早過ぎましたね」しばらくして、松村芳陽さんが現れます。「随分早いですね」

松村さんによると、人身事故があり、中央線のダイヤが大幅に乱れているとのこと。早速駅員に聞いてみると、小金井と八王子の 2 力所で人身事故が発生し、下り電車は約 50 分の遅れが出ているということでした。一瞬、焦りましたが、電車が動いていれば、そんなに問題はないはずと気付きます。そして、9 時 30 分前には参加者が全員到着しました。

## 再起動はあるのかな？

参加者に集合してもらい、まず町田が「関東シルクロード」について説明します。「この関東シルクロードは、大会でも練習会でもありません。みんなで移動(旅)を楽しんでもらいたいと思います。一部(?)歩道のないところもありますから、車には十分気を付けて下さい。私は車で伴走しますので、余分な荷物はお預かりします。また、体調が悪くなった場合は車に乗って頂いて結構です」次に海宝さんから「今回で 18 回目となりましたが、今まで毎回違うコースを走ってきました。最初の頃は町田さんも一緒に走っていたのですが、自転車になり、今では車になりましたが、20 回記念の時は、是非一緒に走ってほしいと思います」

1996 年 10 月 26 日に「関東シルクロード」は始まりました。1994・1995 年の 2 年連続でトランス・アメリカ・フットレースを完走した海宝さんの次の目標は、大陸のシルクロードを走ることでした。もちろんそのような大会はありません。究極のランニングで感じたもの、そしてあこがれのシルクロードへのイメージを走ることが好きな人々に伝え、一緒に楽しもうということで企画したのです。その後、海宝さんは、ウルトラ遠足を企画・運営するようになりました。町田は、なんとなく走るということをし、ゼロからやり直そうと思ったら、再起動しなくてそのまんま。でも、いつかその可能性があるから「関東シルクロード」を続けているんだろうな…。

簡単に自己紹介をしてもらい、スタートします。参加者は海宝さんを含め 13 名です。初参加は 1 名で相田由美子さん。不思議な時間の流れの旅に戸惑うかもしれませんが、きっとすぐに慣れることでしょう。休憩が多くて、その時は海宝さんの口が動いていますから。



## のんびり行こうよ

駅を出て、国道 20 号線を八王子方向に走り、“日連入口”で右折します。日連大橋を渡り 2 キロほど走った右側に“藤野芸術の家”があり、その入口付近で休憩とします。藤野駅からは約 3 キロ、ちょうどよいウォーミングアップができたところ。天気は良好で日があたるところは暖かさを感じることができます。給水をして 10 時 10 分出発。約 1 キロ進むと大きな道路標識があり、直進は道志村へ向かう道、一方右折すると秋山村へ向かう道で、当然、右へ。このような分岐



では、必ず、最後尾の到着を待ってから走り出すのがルールとなっています。このあたりから、アップダウンが現れ、集団の距離が開いていきます。分岐から 3 キロ、先頭を止めて最後尾を待ちます。再び走り出して 10 分、道は突き当たります。右は上野原、左は秋山とあるのですが、小さい標識なので見落としてしまいそうです。ここは、ランナーを止めることなく、町田が誘導することにしました。最後尾を見届けて、車で出発すると、海宝さんの一団は、すぐ先の野菜の無人販売所を物色中でした。ここは、無人ではなく、出店している農家の方が交替







で店番をしているようです。おばさんが、商品の説明や調理方法まで教えてくれるのですが…。なんせ、走って旅してるものですから…。

こんな調子でしたから、約9キロ地点の秋山温泉に着いたのは11時をまわっていました。海宝さんは、温泉施設の手前で人数分の酒まんじゅうを購入して、参加者に振る舞います。施設でトイレを借りるなどしてつついのんびりしてしまいました。出発したのは11時30分、スタートから2時間が経過していました。「この関東シルクロード、回を重ねるにつれて、どんどのんびりしていませんか？」そうかな？そうかも…。でも、30キロなら3時間で終わるより、6時間（？）かけて遊んだほうが楽しいとは思いませんか？どうせ1日がかりですから。そう、思うのですが、確かに時間がかかりすぎているかも？



## 食事処が臨時休業

秋山温泉の入口まで引き返し、県道35号線（四日市場上野原線）を西へ向かって走り出します。ここから、最後の“芭蕉月待ちの湯”へ向かう分岐までは、1本道ですから、車の移動休憩ポイントを少な目にすることにしました。次に町田が設定したのは、約4キロ先の秋山カントリークラブの少し手前でした。秋山温泉まで、海宝さんの後にピッタリついていていた相田さんが最後尾をマイペースで走り続けていた津村さんと走っています。初めての参加ですから、取り残されるという心配もあって、先頭の方海宝さんに頑張ってついていくのかもしれない。津村さんのようにマイペースで走ると、アップダウンの面白さや美しい山並みを楽しめるかな？どんなに遅れてもみんな待っていますからね。



さて、時刻は正午を少しまわり、そろそろ昼食としたいところです。これまでの「関東シルクロード」では、コンビニを利用して、それぞれ好きな食べ物を購入して、昼食タイムとしていたのですが、今回はコース上にコンビニがありません。そこで、下見の際に、“秋山マス釣り場”のレストランで食事をとるときめました。そのマス釣り場までは、あと2キロほどです。秋山カントリークラブの入口を越えると街が現れました。学校、役場、銀行などが集まり、秋山村の中心のようです。生活に最低限必要な施設がなく、外部の旅人が立ち寄るような場









14時30分、このコースの最高地点に到着。そして残り7キロです。「ここからは下りです」「本当に?」「...。そう言われると自信ないけど...」



トンネルを抜けるとやはり下る一方で、下り終わると、見通しの良いこれまでがウソのような平らな道がしばらく続きます。保育園や学校が見えてきて、日常に戻ってきたと感じたところでストップ!“芭蕉月待ちの湯”まで2.2キロの分岐です。斜め左に細い道が延びています。15時20分、ここで最後の休憩です。相田さんも最後は走ることにして車を降りました。オレンジに染まる山をひたすら上ります。最後にこれはないだろうと思うのですが、温泉につかって乾杯するためです。平らな道で駅に行くよりはいいと思いますよ。15時50分、芭蕉月待ちの湯に到着。一風呂浴びて、一杯やって、17時10分のバスで都留市駅に向かう予定でしたが、まあ無理ですね。想定内です。それでも、18時、タクシーと町田の車に乗って、富士急行線赤坂駅に行き、18時26分の電車でみなさん帰路に就きました。お疲れ様でした。







海宝 道義	194-0202	東京都町田市下小山田町 2731-4 042-797-5383
町田 行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12-201 042-773-7415
本橋 裕一	337-0052	埼玉県さいたま市見沼区堀崎町 309 048-688-4076
黒沢 佳文	338-0001	埼玉県さいたま市中央区上落合 3-3-2 048-859-3341
松村 芳陽	228-0828	神奈川県相模原市麻溝台 6-10-14 042-747-0206
高瀬 章	241-0001	神奈川県横浜市旭区上白根町 956-3 045-953-8343
河内 洋子	350-0445	埼玉県入間郡毛呂山町新しき村 049-295-0991
相田 由美子	189-0025	東京都東村山市廻田町 1-24-22 マレッサパーク 201 042-393-7660
加来 義信	228-0801	神奈川県相模原市鶴野森 1-28-14-102 042-747-1636
加村 雅枝	167-0043	東京都杉並区上荻 4-17-19 03-5930-9394
津村 明彦	243-0401	神奈川県海老名市東柏ケ谷 5-10-32-301 046-236-0253
津村 美穂子	243-0401	神奈川県海老名市東柏ケ谷 5-10-32-301 046-236-0253
土屋 晋	196-0025	東京都昭島市朝日町 3-3-7 042-545-5580
土屋 幸子	115-0056	東京都北区西が丘 1-32-7 03-3909-2276

